

# 財務ハイライト

## 平成18事業年度決算

### ■貸借対照表の概要

資産の部		負債の部	
			(単位：億円)
	土地 1,660	資産見返負債 498	
リサーチ・リソース・ステーション棟(霊長研)建設 総合研究棟(工学系)等改修 農学部総合館改修(PFI事業)等	建物等 1,289	借入金 319	センター債務負担金 約314億円 長期借入金 約5億円
	備品 189	長期未払金 124	
約622万冊所蔵 約8万冊増 約5億円増	図書 313	寄附金債務 142	PFI事業の未払金 総合研究棟V(桂) 福利・保健管理棟(桂) 総合研究棟(南部) 農学部総合館改修
	有価証券 53	未払金 180	
	現金及び預金 377	その他 65	
未払金相当約180億円 寄附金約141億円等	未収入金 55	負債合計 1,328	
	たな卸資産 5		
	その他 34		
	<b>資産合計 3,975</b>		
		<b>資本の部</b>	
		資本金 2,445	国から出資された土地 建物、備品等見合い額
		資本剰余金 46	
		利益剰余金 105	16・17年度利益剰余金
		当期末処分利益 51	18年度の利益剰余金 =当期総利益
		資本合計 2,647	
		<b>負債・資本合計 3,975</b>	

平成18事業年度末の貸借対照表の概要は上記のとおりですが、特筆すべき点は以下のとおりです。

#### ■土地 1,660億円(1億円増)

新たに寄附金によりボート部の合宿所(石山艇庫)の土地を取得しています。

#### ■建物等 1,289億円(41億円減)

建物等約1,289億円は、建物等の取得価格約1,642億円から減価償却累計額約353億円を控除した額です。

平成18事業年度は、施設整備事業として行った、霊長類研究所リサーチ・リソース・ステーション棟の建設、総合研究棟(工学系)等の改修、農学部総合館の改修(PFI事業)などにより約68億円の増となっている一方で、減価償却累計額が約109億円の増となっています。

#### ■備品 189億円(6億円増)

備品約189億円は、備品の取得価格約444億円から減価償却累計額約255億円を控除した額です。

平成18事業年度は備品を約97億円取得している一方で、減価償却累計額が約91億円の増となっています。

#### ■図書 313億円(5億円増)

本学にとって重要な財産のひとつです。平成18事業年度は約8万冊

の増冊を図り、年度末の蔵書は約622万冊となっています。

#### ■現金及び預金 377億円(78億円増)

寄附金残高が約141億円、未払金相当額が約180億円、その他物件費、人件費の繰越分等です。

#### ■借入金 319億円(37億円減)

借入金には、国立大学財務・経営センター債務負担金(約314億円)と長期借入金(約5億円)があります。

国立大学財務・経営センター債務負担金は、法人化以前に財政投融资資金を財源として取得した附属病院の資産等にかかる借入金で、償還期限は平成37事業年度です。

長期借入金は、法人化後、附属病院の設備充実のため国立大学財務・経営センターから借り入れたものです。

#### ■長期未払金 124億円(16億円増)

PFI事業である総合研究棟V(桂)、福利・保健管理棟(桂)、及び総合研究棟(南部)の整備並びに農学部総合館(北部)の改修にかかる未払金です。

## ■損益計算書の概要

(単位:億円)

経常費用	
教育研究診療等経費	478
人件費	597
借入金利息	16
減価償却費	108
経常費用合計	1,199

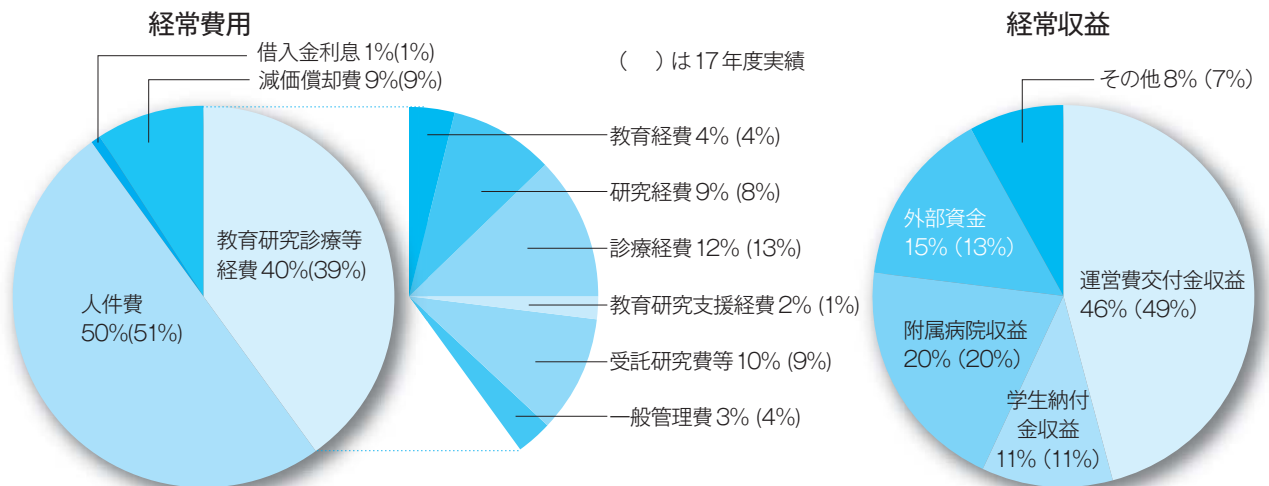
  

当期総利益	51
計	1,250

経常収益	
運営費交付金収益	579
学生納付金収益	137
附属病院収益	246
外部資金	187
その他	101
経常収益合計	1,250

計	1,250
---	-------



### 当期総利益 51億円

平成18事業年度の当期総利益は約51億円を計上しています。このうち、本学の運営努力によって生じた利益が約25億円、資金の裏付けのない帳簿上の利益が約26億円です。その内容は次のとおりです。

#### ■本学の運営努力による利益……約25億円

主な利益要因としては、附属病院収入や雑収入の増収、経費の削減があげられます。この利益は、実際に大学の運営に使用できる資金の裏付けのある利益として、経営努力認定を受けられることを想定しています。

#### ■資金の裏付けのない帳簿上の利益…約26億円

国立大学法人会計においては、原則として損益が均衡する制度設計となっておりますが、一部の会計処理においては運営努力の如何に関わらず利益や損失が生じる制度となっております。

- ① 附属病院に関する借入金債務の償還期間と借入金により取得した資産の減価償却期間のずれから生じた利益  
…約19億円
- ② 自己収入(病院収入や間接経費など)により取得した資産の取得額と減価償却費の差から生じた利益  
…約3億円

- ③ その他さまざまな会計制度上の理由等による利益要因、損失要因により生じた利益  
…約4億円

#### 【借入金の償還期間と減価償却期間のずれから生じる利益や損失】

附属病院の借入金債務は病院収入によりまかないます。そこで、借入金の償還期間と借入金による設備や建物の減価償却期間のずれから生じる、病院収益と減価償却費の差が、資金の裏付けのない利益や損失の要因となります。

